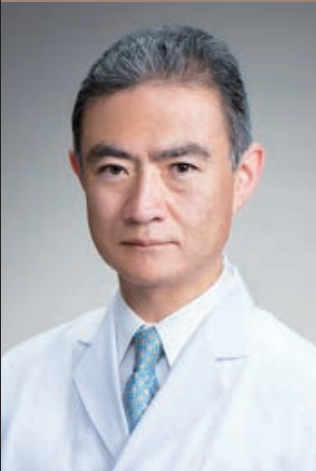


【第16回 医療管理部研修会】のお知らせ



新型コロナウイルス感染症と 歯科医療について

— 歯科は危険な診療科か？ —

◎対象：開業医・勤務医の先生方

◎日時：令和3年11月10日(水) 午後7時

◎会場：東京医科歯科大学 歯科棟南4階 特別講堂
及びリモートによるZoom Web開催

参加費
無料

●講師

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 副病院長
歯科・口腔外科 診療科長

丸岡 豊 先生

●講演抄録

歯科同窓会の先生方におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

いわゆる COVID-19 第一波の際、「歯科は危険だ」といわれ、その後 0 ではなくなったものの現時点においても大きなクラスターは発生していません。

国立国際医療研究センターはナショナルセンター唯一の総合医療機関であり、国際感染症センター (DCC)、エイズ治療・研究開発センター (ACC) や肝炎・免疫研究センターなどを有し、結核病棟も併せ持つ国内最大の特定感染症指定医療機関です。そのため当科にも感染症患者の受診は多く、従来は HIV や肝炎などの血液媒介感染を想定した標準予防策を実施してきました。

感染経路には接触、飛沫、空気、そして血液媒介等の経路がありますが、COVID-19 の感染経路は飛沫感染が有力であるものの未だ不明であるため、従来の標準予防策に加えての対策が必要になります。

最近、「ユニバーサスマスキング」が提唱されていますが歯科ではその特性のためマスク着用のままの診療が難しいばかりでなく、唾液や体液と常に接する診療科であるため、すべての場合において PPE 装備を行うことは理想ですが、限られた医療資源をいかに効率的に使用するか頭の痛いところであります。

本講演では今まで当科で行ってきた簡易ラッピングの他、大型クリーンルーム内にて歯科治療を想定し、レーザー光と超高感度カメラ、粒子測定計を用いて、機器使用時に発生する微粒子の飛散状況を調査した結果の一部を交えながら歯科医療者にも患者にも効果的な感染対策のための装備や環境を考えていきたいと思っております。

〈講師略歴〉

1990年 東北大学 歯学部 卒業

1994年 東京医科歯科大学大学院 修了 (博士・歯学)

1997年 米国 Vanderbilt University Medical School,
Cell Biology, Research Associate

2000年 東京医科歯科大学大学院 顎口腔外科学分野 講師

2007年 国立国際医療センター病院 歯科・口腔外科 診療科長

2016年 東京医科歯科大学 臨床教授 (顎口腔外科学)

2019年 国立国際医療研究センター病院 副病院長
厚生労働省医道審議会委員

2021年 歯科医師臨床研修マッチング協議会委員 現在に至る

■ご参加希望の先生は、右記QRコードよりお申し込みください。

(定員100名。予約枠に限りがありますのでお早めに！)

申込締切 11/4



※政府の方針などで、会場での開催は中止とさせていただくことがございます。

その際はZoomのみでの開催、あるいは録画で後日配信となる可能性があります。